

J-55

生命の活性化
～地域の特性を活かしたホスピスの提案～
Breath of life

Proposal of hospice seems to "house" to penetrate the region

佐藤信治¹, ○浅見 花²
 Shinji Sato¹, *Hana Azami²

Japan compared with other countries, the reality is the spread of hospice is not significantly. Looking at the data rate of cancer patients who died in the palliative care ward in Japan 8.4% in 2011. Proportion to the observed regional differences, Saitama Prefecture, was only 2.1% is my hometown.

That in Saitama Prefecture, in the Chichibu is my hometown, is still reality is there is no hospice. Basin surrounded by mountains, a even inconvenient to go next to the city, on the aging population, will think it necessary functions to Chichibu.

So I in Chichibu is a home, enough to penetrate into the region, and a proposal to create a likely normal "house" hospice in a good way. Those seeking Speaking hospice peace. Speaking of peace of Chichibu, it is a hot spring, which is also the Chichibu resources. Since wished also to the case if Chichibu likeness build in Chichibu, I think that the kana Consider also hospice that incorporating the hot spring function.

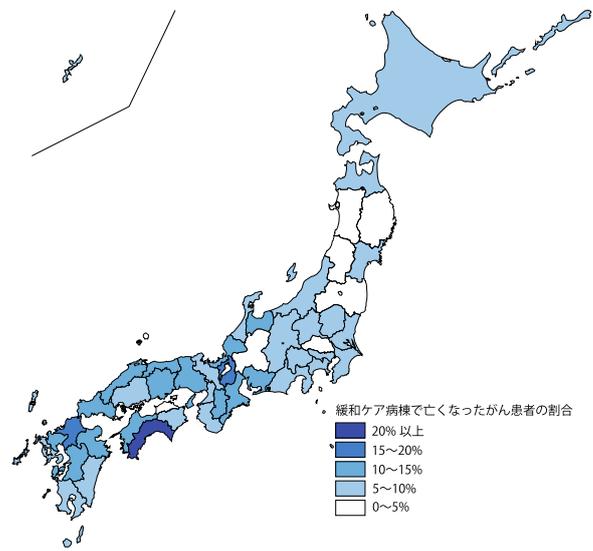
1. 計画背景

日本は他国と比べると、ホスピスの普及が著しくないのが現状である。日本では延命に力を入れるが、ヨーロッパなどでは延命するという考えはない。もう限界という段階になればあっさりと延命処置を止める。アメリカでは死亡する約 45%の人が、ホスピスのケアを利用している。ホスピスはアメリカで驚くほど普及しているのである。

大きな理由のひとつは、ホスピスの数といえる。アメリカでは現在 5300 のホスピスがあるのに対し、日本でホスピスケアを提供する機関は、全国で 339 施設である。この内、一般病院と併設でない独立型のホスピスは 7 施設ある。日本にはホスピスの数が少ないため、ケアが受けたくても受けられない人がたくさんいるのが現状である。

データでみると日本で緩和ケア病棟で死亡したがん患者の割合は 2011 年で 8.4%であった。

Figure1 は、都道府県別の緩和ケア病棟で亡くなったがん患者の割合を示したものである。割合には地域差がみられ、高い都道府県は高知県 23.6%、福岡県 18.2%、滋賀県 17.2%であり、低い都道府県は福島県・埼玉県の 2.1%、秋田県・香川県の 3.5%である。この結果に基づき、本計画では、関東圏で特に割合の低い、私の故郷である埼玉県に的を絞って、地域の特性を活かした緩和ケア病棟を提案する。



(日本ホスピス緩和ケア協会および人口動態統計より)

Figure1. The proportion of cancer patients who died in the prefecture palliative care ward (2011)

2. 計画敷地

2. 1. 埼玉県ホスピスの現状

埼玉県の地形は西側（秩父地域）には山が多い一方、それ以外の地域は関東平野の一部をなしており平地が多い。平地部においては、東京に隣接する南側ほど人口が密集し、逆に北側ほど農地が多くなるという傾向となっている。

1 : 日大理工・専任講師・海洋建築工学科 Assistant Prof. of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U, Dr. Eng.

2 : 日大理工・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U.



Figure2. Topographic map of Saitama Prefecture



Figure3. Saitama Prefecture, the location of a current hospice (red part) Plan site (green part)

Figure3 が、現在あるホスピスの場所を色づけしたものである。東側に集中していることがわかり、西側にはない。西側は山地であるため、交通が不便にも関わらずホスピスがない現状がわかる。

これらを踏まえて計画敷地は、私の故郷でもある埼玉県秩父市（上図の緑色の部分）を対象とする。山地に囲まれ、市内は秩父盆地と言われている。高齢化率も増え続け、今後老老介護が多くなる可能性が高い市である。盆地であるが故に、隣の市へ行くのにも、危険な山道を通らなくては行けない。しかし、土地や緑は多く残っており、環境に恵まれている。そんな秩父市に必要な機能だと考えた。

2. 2. 日本版 CCR C 構想の推進

政府が 2015 年 6 月 30 日に閣議決定した「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」の柱に、高齢者が地方に移住する「日本版 CCR C 構想」の推進が盛り込まれた。首都圏でも人口減に苦しむ地域を中心に同構想に名乗りを挙げている。住み慣れた地域から比較的近い場所に移住したい人の受け皿となり、地域活性化につながる事が狙いである。

シニアの移住先として首都圏の埼玉県秩父市が名乗りを上げた。秩父市は、東京の豊島区と協議を進めて

いるそうで、豊島区の池袋からは西武鉄道が秩父まで繋がっていることもあるようだが、なにより豊島区では、老人ホームなどの建設地を確保することが難しいという実情がある。

逆に秩父市のほうでは、人口の減少が進んでおり、元気なシニアが移住してくることは、市の活性化にもなる。そのため、秩父市では、移住してきた人たちが農業を始めることを支援する方策などを考えているようだ。また、シニアであれば、いずれは病気になることも考えられるので、秩父市としては、病院などの設備を充実させる必要もある。



Figure4. Nihon Keizai Shimbun morning edition with 2015/7/1

3. 基本計画

秩父の地域の特性でもある「祭り」をテーマに、みんなが集まりやすいホスピス施設を提案する。

そして、ホスピスといえば求めるものはやすらぎである。秩父のやすらぎといえば、秩父の地域資源でもある温泉である。秩父に建てるのであれば秩父らしさも取り入れたいので、温泉機能を取り入れた新しい形式のホスピスも考えている。

そして秩父市は荒川の源流もあり、水辺空間も多い地域である。ホスピスは延命を目的としていないため、治癒効果としてはとらえないが、音というのはやすらぎの効果となるため、水辺空間のある敷地選定をしようと考えている。

4. 参考文献

- [1]データでみる日本の緩和ケアの現状 宮下 光令* 今井 涼生* 渡邊 奏子*
- [2]完全独立型ホスピスとは
- [3]埼玉県・緩和ケア病棟(ホスピス)のある施設
- [4] 2015/7/1 付日本経済新聞 朝刊